

民族舞踊文化



No. 16

2004年5月14日

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

財団法人 黛民族舞踊文化財団

〒107-0052 東京都港区赤坂3-10-3 黛ビル4F TEL. 03-3583-3633(代)
FAX 03-3583-3639



中国「南寧国際民歌芸術祭」の大パレードに参加する黛民族舞踊団

民族舞踊文化の一層の発展と

交流の進展を

財団法人 黛民族舞踊文化財団

理事長 犬丸 直

21世紀も4年目に入り、平成の御世も16年を数えるに至りました。世界の情勢もわが國のありさまも、引きつゞき多くの問題をかかえながらも、新たな局面へと推移しつつあります。そのなかにあつてわが財団は、民族舞踊文化ひとすじに精進をつゞけ、その国際交流の輪を拡げる努力を重ねつつあります。

昨年は中国雲南省舞蹈家協会第10次訪日代表团と韓國の金英実舞踊団が来日され、黛民族舞踊団も加わって國內各地で民族舞踊交流の催しをくりあげました。また韓國の水原市でのワールドカップ一周年記念世界演劇祭、同國釜山市での國際舞踊フェスティバル、また中国南寧市における國際民歌芸術祭などにも黛民族舞踊団から参加交流いたしました。それらの催しの様子は、次頁以下

に報告されているとおりで、誠に多彩な華を咲かせ、交流の実をあげることができました。

今年は隔年に行われております黛民族舞踊団の訪中の年になります。黛節子先生が先鞭をつけられて以来重ねられてきた雲南省舞蹈家協会との間の相互訪問の結果、この協会と黛民族舞踊団とのメンバーの間には強い友情のきづなが生れており、相互の芸術に対する専門的な知見が高まると共に、お互の舞踊にこめられた心情に対する深い共感と感銘が育ってきております。今年もみのり多い成果を訪中団が得て帰ることが期待されます。

終りに当財団が今年も各方面の絶大な御指導と御支援・御協力を得て民族舞踊文化に貢献できますよう衷心よりお願いいたします。

アジア民族舞踊交流会

2003年9月11日～9月22日



アジア民族舞踊交流会さよならパーティー 赤坂飯店にて

2003年は黛民族舞踊文化財団・黛民族舞踊団にとって多忙な事業年であった。6月の韓国水原ワールドカップ1周年記念世界演劇祭、7月の韓国釜山国際舞踊フェスティバル、11月の韓国第7回忠清舞踊祭典、中国南寧国際民歌芸術祭等に招聘され、これ等の公演に参加出演した。更に国内では9月に、雲南省舞蹈家協会との隔年交流事業として、中国少数民族舞踊団と、併せて金英実先生率いる韓国民族舞踊団を招聘し、日中韓三国による民族舞踊による「第3回アジア民族舞踊交流会」を、東京をはじめ地方を含め数カ所で公演した。

【中国雲南省舞蹈家協会第10次訪日代表団メンバー】

団 長	黄 寅 敏	男性 (漢族)	雲南省文学芸術界連合会
団 員	楊 銳 森	男性 (漢族)	楚雄州音楽舞踊家協会副主席
〃	段 勇	男性 (ハニ族)	紅河州舞踊家協会副主席
〃	李 紅 雲	女性 (ナシ族)	麗江教育学院芸術体育学部講師
〃	羅 愛 英	女性 (漢族)	紅河州金平県民族歌舞団団長
〃	王 瑞 娜	女性 (漢族)	雲南省騰冲県文化館館長
〃	龐 素 娟	女性 (漢族)	雲南省石屏県音楽舞踊協会会長

【大韓民国金英実舞踊団訪日代表団メンバー】

団 長	金 英 実	女性	韓国未来舞学会理事	水原華城文化財団理事
			水原女子大学教授	
団 員	朴 再 姫	女性	清州大学校芸術大学舞踊学科教授	
			忠清地域舞踊教授連合会会長	
	蔡 京 姫	女性	尹 善 義	女性
	弘 勝 淑	女性	柳 周 延	女性

【黛民族舞踊団メンバー】

団 長	大 野 晃				
団 員	黛 琉 美	黛 智 英	黛 今日子	黛 莉 香	
	黛 真 也				
	平 出 圭子	伊 藤 みつ子	岩 崎 任 代	小 池 由美子	

アジア民族舞踊交流会の公演日程

2003年

9月12日(金)	15:00	公開レッスン	群馬県新田町文化会館エアリスホール
9月13日(土)	14:00	舞踊交流会	群馬県新田町文化会館エアリスホール
9月15日(月)	11:00	舞踊交流会	新潟県柏崎市綾子舞会館
9月16日(火)	18:00	舞踊交流会	東京都中央区日本橋劇場
9月17日(水)	18:00	舞踊交流会	東京都港区赤坂区民センター
9月21日(日)	14:00	東アジア舞踊・シンポジウム	学習院創立百周年記念会館(目白)
	16:00	舞踊交流会	

出演 中国雲南省舞蹈家協会・韓国金英実舞踊団・黛民族舞踊団

主催 財団法人 黛民族舞踊文化財団

共催 財団法人 新田町文化スポーツ振興事業団
学習院大学 東洋文化研究所アジア文化プロジェクト

後援 文 化 庁
中 華 人 民 共 和 国 駐 日 本 国 大 使 館
駐 日 本 大 韓 民 国 大 使 館
日 本 中 国 文 化 交 流 協 会

アジア民族舞踊交流会記録

9月11日(木)

第10回交流会初日。中国舞踊団一行、上海発中国東方航空 MU523 便で来日。

同じく金英実先生と韓国舞踊団一行、仁川発 JAL 953 便にて14時50分成田着。全員都市センターホテルに直行。夕方一行を迎えての歓迎夕食会。その後、全日程の打ち合わせを行い解散。

9月12日(金)

全員朝食後、8時ホテルを出発。ラッシュの中、地下鉄で浅草まで移動。東武伊勢崎線で群馬県太田市着。太田で出迎えのバスに乗り新田町プラザ・ニッタホテルに到着。昼食後15時から新田地区木崎音頭保存会のメンバーと日中韓三ヶ国による民族芸能交流会、及び公開レッスンを行う。

夜18時から新田町主催の歓迎会が催される。新田町に留学中のインドネシア学生達も参加し、インドネシアの民族舞踊を披露する等、国際交流の輪が広がる。



黒島口説 黛民族舞踊団

9月13日(土)

朝10時から新田町文化会館エアリス・ホールにてリハーサルを行う。

14時、日中韓民族舞踊交流会開演。17時、文化会館高橋館長以下スタッフ一同の見送りの中、帰京の途につく。20時過ぎ赤坂に戻りホテルに到着。

9月14日(日)

「綾子舞500年祭—阿国歌舞伎から400年—平成15年度大会民俗芸能学会」のシンポジウム聴講参加と、日中韓民族舞踊交流公演出演のため、一同東京駅8時24分発の新幹線経由で新潟県柏崎市へ向かう。11時過ぎ柏崎市に到着。シンポジウム会場の柏崎市民会館大ホールに入る。

「綾子舞」の文化財的価値と「ややこ踊り」の要旨について山路興造先生の基調講演を始め、以下の内容で諸先生方の講演が続いた。

「綾子舞伝承の歴史と現状」 伊東 勉先生

「綾子舞の芸能・芸能としての特徴とその価値」

須藤 武子先生

「綾子舞の狂言とその詞章」 林 和利先生

「出雲のお国関係の資料の再検討」 和田 修先生

「今なぜ綾子舞か」というテーマについて、中韓両国の同時通訳を通して、一行は熱心に聴講する。

講演会終了後、市内での買い物をすませ翌朝早いので、一行早めに宿舎に戻る。

9月15日(月)

朝食後宿舎を出発。日中韓民族舞踊交流公演会場の柏崎市女谷綾子舞会館に向かう。

舞台が野外舞台であったため、生憎の雨で公演が危ぶまれたが、幸い本番真近には雨も上がり、無事公演することが出来た。一行は当方の公演終了後、現地の踊りを鑑賞、取材を行う。演じられた演目は下記の通り。

「祓い舞」「常陸踊り」「肴さし舞」「小原木踊」「打ったり舞」「因幡踊り」「海老すくい」「三条の小鍛冶」「猩々舞」「小切子踊」「堺踊」等。

夕食後、柏崎発18時01分の列車で帰京の途につく。

9月16日(火)

「アジア民族舞踊交流会」会場の日本橋劇場にて13時より本番通りのリハーサル。18時より本番。

日本・中国・韓国三者が競い合っの緊張感ある舞台であった。

この日、後半に出演して下さる予定の韓国、朴再姫先生が来日。夜、金英実、朴再姫の両先生は国立劇場で歌舞伎観劇。

9月17日(水)

「アジア民族舞踊交流会」会場の赤坂区民センターで13時よりリハーサル。18時より本番。



太平舞 金 英実



サルブリ 朴 再姫



日本橋劇場の公演を終えて

9月18日(木)

鎌倉鶴岡八幡宮白井名誉宮司の御好意で訪日団一行を鶴岡八幡宮に案内する。白井名誉宮司はかつて故黛節子前理事長が、八幡宮の舞殿で静御前の舞を奉納されたこと、第1回中国訪日舞踊団の名手、刀美蘭さんが孔雀舞を披露されたこと等を懐かしげに語って下さった。

韓国の朴再姫先生が八幡宮の歴史について色々質問され、名誉宮司も丁寧に答えられ、和やかな中にも意義のある時間を過ごした。

白井名誉宮司に別れを告げた後、一行は江ノ電で片瀬海岸に移動。訪日団の何人かは海が始めてという人もいて、暫くの間楽しそうな時間を過ごした。最後に鵠沼海岸で不慮の死を遂げた、雲南省昆明市出身で中国国歌の作曲者として名高い「聶児(ニエアル)」の記念碑を訪れた。



竹あみ帽子の踊 中国訪日舞踊団

9月19日(金)

朝10時、中国舞踊団一行は中国大使館に趙宝智参事官、文化担当の馬曉琛先生を表敬訪問。午後は金英実、朴再姫両先生が韓国文化院に金鍾文院長を表敬訪問。

その後、文化庁で中韓合流して河合文化庁長官を表敬訪問。総勢20名近い団員を前に長官が、それぞれの文化について質問され、今後もこうした交流を続けて欲しいと励ましの言葉を頂いた。

夜、一行はディズニーランドで、世界の民族舞踊の踊りを鑑賞。

9月20日(土)

この日は全員休養日。買い物等自由な時間を過ごす。

夜は赤坂飯店にて、財団主催のさよならパーティーが催される。犬丸理事長はじめ関係者一同、親善交流のひと時を過ごす。



河合文化庁長官と舞踊家達

9月21日(日)

学習院大学東洋文化研究プロジェクトの主催で「東アジア民族舞踊研究会シンポジウム」が開かれ、舞踊団側から各団長が出席し、東洋文化研究プロジェクトを主宰されている学習院大学の諏訪春雄先生の司会で、各国民族舞踊の特徴や違いに就いて、実技を交えての討論を行った。シンポジウム終了後「アジア民族舞踊交流公演」を行った。終演後、プロジェクトの先生方との交流会が開かれ、最終日ということもあって、全員くつろいだ感じで、かわるがわる歌を歌いあい、にぎやかな親善の宴となった。

9月22日(月)

10日以上にわたる全日程を無事終了し、正午過ぎ一同それぞれ帰国の途につく。



越中おわら 黛民族舞踊団

《交流会プログラム》

第一部

1. ややこ踊り (日本・新潟県)

民族舞踊家黛節子先生は民族舞踊を再構成した作品を数多く残されましたが、その他にも中世から近世にかけての芸能の復元もいくつか試みられました。「ややこ踊り」もそうした作品の一つです。慶長時代(1596年～1615年)歌舞伎の始祖といわれている出雲の阿国が流行らせた「ややこ踊り」の復元を試みた作品です。

2. 太平舞 (韓国)

王と王妃、そして太平聖代を祝うために舞う踊りで、動きが繊細で優雅で動作一つ一つに節度があります。特にステップが多様で、この踊りだけが持つ味といえるでしょう。重要無形文化財第92号に指定されています。

3. 三弦舞 (中国・イ族)

小さな三弦の音が響き娘が歌い、若者が合わせます。悠々とした三弦の調べが、どれほど長い年月、哀牢山で歌い継がれてきたことでしょうか。この踊りには深い情緒と絶えることのない愛情が込められています。

4. 会津磐梯山 (日本・福島県)

四つ竹をリズムカルに打ちならしながら踊る近代感覚溢れる楽しい踊りです。

5. アリラン、アリラン、アラリヨ (韓国)

韓国を代表する民謡アリランをベースにして作られた作品で、両手に大きな扇を持ち、早いながらも陽気に楽しく動きながら、色々な形や模様を表現します。

6. 竹あみ帽子の踊り (中国・タイ族)

人々は皆、異口同音にタイ族のことを美しく心優しく労働好きの民族、そして歌や踊りが上手な民族だといっています。この踊りは主として雲南省の金平(水タイ)タイ族の民族舞踊―箆帽舞(竹編み帽子の踊り)に取材をしています。この踊りを見れば美しい金平の村々の様子が浮かんでくるでしょう。

7. 鳩間仲森 (日本・沖縄県)

鳩間仲森は西表島北方洋上に浮かぶ周囲三・五キロメートルの鳩間島に生れた謡です。

島の中岡から見た豊かな自然の景観と純朴な島人の織りなす風土をうたったものです。

鳩間節はコンタから節謡に改作され、舞踊がついて結願祭の奉納芸能として発達してきました。鳩間島ではスディナ、カカンの装束にタナシィと呼ぶ打掛を用い、頭飾りもはなやかですが、石垣四ヶ村あたりではスディナ、カカンに色物手巾、四つ竹で踊るのが一般的な形です。

8. クッコリ舞 (韓国)

高麗；朝鮮の普州教坊聴により伝わってきた踊りで、高麗文宗の時より1905年教坊聴が廃止になるまで、官妓制度により伝えられた踊りです。

9. 姿蹉魯(ツーツオルー) (中国・ナシ族)

“ツーツオルー”はナシ語で“歌おうよ、踊ろうよ”という意味です。この舞踊は麗江地区では町や村の隅々まで流行しました。人々は“ツーツオルー”の音楽を聞くや否やすぐに歌い、踊りだします。

月が明るく輝いた。私たちはみんなで手をつなごう。

“ツーツオルー”“ツーツオルー”、星が雪山の頂に落ちた。太陽は金色のリボンを引いて舞う。私たちはみんなで手をつなごう。“ツーツオルー”“ツーツオルー”、五色の雲が雪山の頂に漂っている。

10. 祝い舞 (日本・宮城県)

〔花田植〕

東北・仙台市の郊外の秋保地区に伝わる民俗芸能で、豊年を願い、一心に祈りを込めて苗を植える乙女達の姿を踊りにしたものです。

〔豊年舞〕

土に生きた私たちの祖先は、豊かな稔りこそこの上ない喜びだったに違いありません。その豊年を祝い祈る踊りこそ、舞踊のエネルギーの原点とも言えます。豊年の喜びを歌い上げた踊りです。

第二部

1. 黒田節（日本・福岡県）

日本の民謡といえば、黒田節といわれるほど多くの人々に親しまれていますが、この曲は越天楽の曲調を持ち、民謡には珍しく格調の高いものです。

古典のテクニクをもとに若き武士の勇壮と典雅を表現しました。

2. ご老人（中国・イ族）

中国の雲南省の山岳地帯では、竹の筒を使ってタバコを吸い、竹製のタバコ入れにタバコのきざんだ葉を詰めるというやり方で数百年の歴史があります。この踊りは古い店の様子とユーモアのある演技でイ族のタバコ入れ舞の変遷をお見せします。

3. 花笠踊り（日本・山形県）

東北・山形地方に伝わる代表的民謡を、現代のリズムにアレンジして振りをつけたものです。赤い花笠をクルクル返ししながら華やかに若々しく踊ります。衣装の色感がとても美しい踊りです。

4. サルプリ（韓国）

重要無形文化財第97号に指定されています。白い布の舞、即興舞とも言います。

南道巫舞の系統で、厄を払うという意味を持った民族舞踊です。一般的に白チマ、チョゴリに柔らかな白い布を持ち、韓国舞踊の特徴の(静、中、動)の美が極に達する神秘的で喧騒的な振りに構成されています。

5. 希望（中国・ヤオ族）

深山で代々暮らしてきた瑶安ヤオ族の女性たちは長年外部の生き生きとした世界を知らずに過ごしてきました。中国の改革開放以後、彼女たちは突然何かを悟ったかのようにいつも眺めていた遠くの所へ自己の行き先を委ね、労働の物語に従って自分を変えて、更にすばらしい明日を目指すことを決心したのです。

6. アバック舞（韓国）

韓国の伝統的な宮廷楽器ーアバックを持ち、現代的な振り付けを加味した創作舞。

ゆっくりしたリズムと早いリズムが混ざり合って構成され、特にクライマックスのリズムは韓国の粋な感じを表現しています。

7. 越中おわら（日本・富山県）

越中八尾地方で9月1日から3日まで、“風の盆”と呼ばれ町をあげて踊られる盆踊り。この盆踊りをもとに、男女の出会いと別れを表現した日本の情緒溢れる作品です。

8. 炎の鳳凰（中国・イ族）

鳳凰はイ族の中のニス人が好み、尊んでいる鳥類の一つです。ニス人の民間伝説には擬人化された感動的な鳥たちの物語が数多く登場します。ニスの人々にとっては鳳凰とはすなわち無限の希望と完全な美の形象化の化身なのです。ニス人の歌や踊り、服装はすべて独特の風格を備えています。

9. チャンゴ舞（韓国）

韓国民族楽器の中で代表的な打楽器のチャンゴを持ち、その味のあるリズムに乗って踊る妖艶な姿は韓国の魅力を十分に発揮しています。

10. 黒島口説（日本・沖縄県）

沖縄県、八重山群島の黒島に伝わる口説歌。島の自然の豊かさ、豊作の有様、島最大の行事である綱引き祭りや、干蛸を盗んだ鼠、それを追いかける猫など、平和な島の年中行事などを振りとともに囃したててコミカルに踊ります。

綾子舞取材記

2003年9月15日(月)

2003年の「阿国歌舞伎400年祭」にあたり、当財団が招聘した雲南省舞蹈家協会第10次訪日団、並びに韓国・金英実舞踊団のメンバーを同行して、新潟県柏崎市で開催された「綾子舞500年祭」に参加した。

「綾子舞」は前理事長黛節子先生が阿国の踊りの復元を心に描き、必死の思いでその手掛かりを得ようとされていた時、当時昭和25年8月頃のことだった。本田安次先生から新潟県刈羽郡鶴川村(現在柏崎市)に現存する「綾子舞」にその面影が残されていると教えて頂いたその翌年、丁度東京青山の日本青年館で開催された全国郷土芸能大会に「綾子舞」の一行が出演されたのを機に綾子舞保存会(現綾子舞保存振興会は昭和33年下野と高原田の二集落に伝承されていた組織を合併したもの)との接触が始まった。そして早速取材に現地を訪れたのが今回「綾子舞500年祭」が開催されているこの地だった。

当日のシンポジウムでも「綾子舞」に関する論議が盛んに行われた。そもそも綾子舞の伝承起源については種々諸説あり、未だ特定出来ていない。

一例を上げれば

- ・ 出雲の阿国たちが慶長期に演じていた「ややこ踊り」という芸能の一座が、地方巡業していた時代の置き土産ではないか？
- ・ 初期歌舞伎踊りと綾子舞は阿国が踊ったという「ややこ踊り」と音韻の通じるものがあるという説。
- ・ 又、綾子舞の名前のいわれは様々あって、越後守護代上杉房能の奥方綾の方が侍女と共に落ちのびた山間の山里が後世に言う女谷で、この綾子の伝えた舞が「綾子舞」という説。

- ・ 一説には、京から伴ってきた白拍子が伝えたという説や、京都北野神社の巫女文子(あやこ)が舞ったもの等々諸説あるが、いずれにせよこの芸能は京から伝承されたものと思われる。

.....

このシンポジウムを聴いて感じたことは、芸能は我々の社会生活や精神生活上に於いて大事なものだということ。色々な角度から論議される中で、「綾子舞」が貴重な文化財として芸能史上価値の高いものだという評価を得ていることがよくわかった。

思い出されるのは、民俗芸能が今の様に大きく取り上げられる以前に、我々舞踊団員は、黛節子前理事長に連れられて、全国各地の取材に同行できたこと。

それは、田植え唄に聞き惚れた秋保の里の取材や、酷寒の早池峰の神楽の取材、そして今から約50年程も前に訪れたこの黒姫女谷の杉の木立に囲まれた夏の日の思い出等々。それらは現在と比べ、もっと悠々とした自然の中の静けさと強靱さがあったように思う。

私たちはその後も幾度か取材のため、現地を訪れたが、こうした芸能を正確に記録したり保存することの難しさを痛感した。つまり生の芸能は心と身体が会得するものであり、文字や映像での記録には限界があるということである。そこに伝承の厳しさと尊さがあるのだと思う。



柏崎市教育委員会／柏崎市綾子舞保存振興会
「綾子舞」より



柏崎市教育委員会
柏崎市綾子舞保存振興会
「綾子舞」より

第3回 舞踊団訪韓公演報告

——水原ワールドカップ1周年記念世界演劇祭参加——
2003年6月14日～2003年6月18日

2002年水原市において開催されたサッカー・ワールドカップ1周年を記念して世界演劇祭が催された。当舞踊団も招聘され、この公演に参加することとなった。

訪韓メンバー

団長	大野晃		
団員	黛智英	黛今日子	
	黛莉香	平出圭尹子	
	伊藤みつ子	岩崎任代	



金容西水原市長、金英実先生と大野団長

6月14日(土)

舞踊団一行は朝8時、JAL951便にて韓国仁川に向かう。空港で金英実先生の団員の方々の出迎えをうける。夜、オープニングのセレモニーで1曲踊るが、練習不足もあり成績芳しからず。終演後大反省会。

6月15日(日)

朝10時会場にて稽古。昨日の失敗を繰り返さない為、全員稽古に集中する。15時開演。会場は水原市美術館内のホール。全演目を上演。



公演を終えて

6月16日(月)

この日は夕方まで自由時間。昼、街で軍事演習を体験。全員避難体制をとらなければいけなかったことを、我々は後で知る。夜7時、全員揃いの浴衣で演劇祭の会場に向かう。流山児事務所の公演を観劇。

6月17日(火)

昼、演劇祭の会場でリハーサル。夜8時本番。終演後会場近くのレストランで、水原市長も出席して金英実先生の誕生日パーティーが開かれる。オープニングの時の反応と違い、公演の成果に多くの賛辞が寄せられる。



演劇祭会場にて

6月18日(水)

仁川13時35分発JAL951便で帰国の途につく。

第4回黛民族舞踊団訪韓公演報告

——第16回釜山国際舞踊フェスティバル参加——

2003年7月4日～2003年7月7日

これまでの韓国公演の実績を評価され、釜山国際舞踊フェスティバルに招聘され参加を決める。

訪韓メンバー

団長	大野晃		
団員	黛琉美	黛智英	
	黛今日子	黛莉香	
	黛真也	平出圭尹子	

7月4日(金)

韓国釜山空港着、通訳の宇田川さんとボランティア・アシスタント通訳の于有龍さんの出迎えを受ける。

会場のキョンソン大学で約1時間、場当たり、リハーサルを行い、夜韓国側と打ち合わせ。



キョンソン大学での公演を終えて

7月6日(日)

午前中はショッピング。団員の中で先に帰国する2名を空港まで見送る。夕方5時より景勝地海雲台でキョンソン大学舞踊科の学生を中心に全国から選ばれた四つの大学の舞踊科の学生による舞踊公演を観る。海を背景に自然の景観を生かしたスケールの大きな舞台構成であった。この日も終演後打ち上げパーティーが開かれた。

7月7日(月)

昼、礼鷲山通度寺を見学。一同静かな境内を散策。17時釜山発の便で帰国の途につく。



崔恩姫先生を囲んで

7月5日(土)

朝10時ホテルを出発。午前中自習レッスン。午後2回リハーサルを繰り返す。夜19時から本番。

終演後、キョンソン大学総長朴鏡文先生、芸術大学舞踊学科長崔恩姫先生、大学教授李栄熙先生、大学教授申貞姫先生その他民俗学者、出演者、生徒さん達が大勢出席してレセプションが開かれ、民族文化について活発な論議が交わされる。



芸術大学舞踊学科の学生と大野団長

第5回黛民族舞踊団訪韓公演報告

——「第7回忠清舞踊祭典」参加——

2003年11月5日～2003年11月7日



東洋日報趙社長、朴再姫先生と五月流の舞踊家たち

9月に当財団主催のアジア民族舞踊交流公演に出演のため来日された朴再姫先生から、訪韓出演を要請されたが、生憎、当舞踊団のスケジュール調整がつかず、代わりに日舞五月流の先生を御紹介し、財団派遣の形をとった。

訪韓メンバー

五月 千 豊
五月 豊

五月 豊 香



清州市立舞踊団の劇場で公演を終えて

11月4日(火)

財団派遣ということで、財団職員の藤原明人が成田空港まで同行する。JAL951便にて出発。仁川空港から会場まで交通渋滞のため着到が遅れ、その日のリハーサルに間に合わなかった。

11月5日(水)

午前10時、東洋日報新聞社、趙社長を表敬訪問。午後リハーサルを繰り返す。夜20時30分から本番。



越後獅子 五月千豊

11月6日(木)

清州動物園を見学の後、朴再姫先生を団長とする清州市立舞踊団の劇場で、舞踊団の「タイコの踊り」を鑑賞。

夜は朴先生の御招待でさよならパーティーのお招きを受ける。

11月7日(金)

仁川発13時10分のJALで帰国。

南寧国際民歌芸術祭の旅

2003年11月5日～2003年11月12日

2003年春、中国大使館を通して、秋に中国広西チワン族自治州の州都南寧で開催予定の、南寧国際民歌芸術祭に当舞踊団が出演参加出来るか否かの問い合わせがあった。この年は何故か公演の引き合いが多く、舞踊団のスケジュール調整に若干手間取ったが、各国の民族芸能家達も集まるということで、何とか出演出来るよう手筈を整えた。結果として私たちの出演はユニークで目立った故か、人気があり大変好評で、参加出来たことは、国際交流親善の成果を大きく得られたものと思う。



南寧市副市長と大野団長

11月5日(水)

搭乗便その他全て中国側主催者側の指示で、朝7時50分成田発ANA909便にて香港経由で桂林に向かう。

香港出発中国南西航空3032便の搭乗者は、全員民歌芸術祭の出演者と思われる各国のアーティストで占められた。空港で待つ間も踊ったり、音合わせをしたり、その時点からフェスティバルの前哨戦といった雰囲気。

香港発後40分で桂林着。芸術祭の工作人員（コーディネーター）の出迎えを受け、大型バスに分乗して宿舎桂林環球大酒店に入る。

11月6日(木)

この日、主催者側は目的地南寧に向かう前に、世界的にも有名な桂林の観光スポットに全員を案内した。

午前中一杯景勝地を散策した後、昼食後バスを連ねて南寧へ向かう。辺り一面殆どが砂糖黍畑に囲まれた高速道路を只ひたすらに走ること6時間。夜19時過ぎに宿泊ホテルの南寧鳳凰賓館に到着。我々舞踊団一行、即ち日本人グループの面倒をみる担当工作人員は、若い女性の黄紅さんと、広西大学英文学科を卒業して英語の堪能な陸さん。

滞在中、朝から晩まで、お二人が私たちの面倒をみて下さった。日本語の通訳は游さん。日本に留学はしていたものの、現在は南寧市の水道関係の仕事をしていると

かで、舞台関係の経験は皆無だったため、些か戸惑ったこともあった。

11月7日(金)

昼食後、化粧、衣装を付けて会場に向かう。良風江旅游美食祭の特設ステージで「ややこ踊り」を上演。我々の前後でドイツ、ルーマニア等のメンバーも出演。

午後は夕食後19時、芸術祭の開幕式に出席。警護が厳しく、カメラ、バッグ等の持ち込みは一切不可。大多数の人込みを分けて民歌広場(競技場)に到着。開幕式は国内外のスターが集い、花火やレーザー光が数多く使われ、舞台両脇に設けられた特大スクリーンには、出演者のクローズアップが同時に写し出されるという大掛かりな演出。特に香港の人気スターが登場した時には場内破れんばかりの大歓声に包まれる。我が国でも人気バンドの野外、或いはアリーナの公演では可成り派手な舞台作りが行われているが、それをも超える程のダイナミックなパフォーマンスであった。中国も遂に此处まで来たかという思いがした。

11月8日(土)

この日、全市をあげての「南寧国際民歌芸術祭」大パレードに参加するよう要請を受ける。出発点はメインストリートの端で、朝10時過ぎに開始された。最初は南寧市所管の各区、県の山車(デコレーションを施した花自動車)の後を、それぞれの民俗衣裳をつけた小中学生の音楽隊、師範学校の生徒達が続く。今や花自動車は、携帯電話会社や特産のお茶の会社など、スポンサー付きの山車が多く見受けられた。そしてサンバを踊るブラジル女性を乗せた山車を先頭に、海外から参加の音楽、舞踊の各国代表がパレードを展開する形になった。



会津磐梯山 朝陽公園の特設ステージにて

全員揃いの浴衣で参加した我々舞踊団は、行進の一番先頭を歩くよう指示された。舞踊団一行は大通り一杯横一列に広がって、各国舞踊団の先頭をきって行進を始めた。沿道を埋めた数万の市民の歓声に囲まれて約4キロにわたる道を歩き通した。その間、切れ目なく道路の両側を二重三重に取り囲んだ市民の歓声は、私たちの後に続くイギリス・スコットランド隊のバグパイプの音をかき消すほどだった。

4キロのパレードを終えて昼食の後、14時半から永新区民生広場の特設ステージに於いて「黒島口説」を上演する。(1頁の表紙写真参照)



新区民生広場 黒島口説

11月9日(日)

朝、9時30分から朝陽公園内の特設ステージにて「会津磐梯山」を上演。踊り終えて直ちに移動。次のステージ江南区江賓休閒広場野外ステージで「黒島口説」を上演。午後14時30分から南寧劇場にてリハーサル。

現地担当プロデューサーに我々の持参したプログラムを観てもらい、曲目を選んでもらう。結果、夜の演目は「黒島口説」と決まる。夜20時より南寧劇院《環境風》歌舞晚会“振寧之夜”で「黒島口説」を上演。

11月10日(月)

朝8時出発。高速道路で一路その日の公演地横県に向かう。10時30分より横県城北社区特設ステージにて「花笠踊り」を上演。踊り終わった後、この地の名産品のお茶を扱う問屋に案内される。団員めいめいお土産購入。夕方17時邕寧灯光球場(円形劇場のような野外ステージ)に到着。20時から「黒島口説」を上演。我々と同時にタイやスコットランドのグループも出演。フィナーレは全員加わっての輪踊り。これまでの中でも最高の盛り上がりとなる。

11月11日(火)

この日、午前中は賓陽県文化広場(野外ステージ)で踊る。曲目は「黒島口説」。農村地帯をバスで往復。

午後の会場は広西大学。野外の特設会場に2000人近い学生が集まっている。全て学生達の手で運営されていて進行も手際がよい。我々一行には大学の日本語学科の学生が付いてくれて、達者な日本語で一同の面倒をみってくれる。学生が言うには「過日、西安の大学で起こした日本人留学生による事件の影響で、教授から“日本の舞踊団の人達は来ないかもしれない”と言われ、我々一同がっかりしていましたが、念のため事務局へ問い合わせたところ、皆さんが来ることが判り、こうしてボランティアでお手伝いさせてもらいに来ました。」と言われ、我々一同大感激。曲目の「黒島口説」に学生達は大喜び。

大喝采の中、学生代表から花束を贈呈される。民俗衣装に身を包んだ学生達による民族舞踊も披露された。

夜は南寧市の幹部による歓迎パーティー。その後民歌広場で催された「中国民歌祭典と民歌コンテスト大会」に招待される。この催しは中国国内の各省を代表する歌手達が受賞曲を披露するというもので、テレビで顔馴染の歌手達が総出演するというので、広い会場を埋め尽くした聴衆の熱気は大変なものだった。

フェスティバルの最終日、美しくライトアップされた南寧の夜景を見ながらホテルに戻る。

11月12日(水)

12時20分発、中国南方航空CZ3089便で帰国の途につく。香港で15時30分の全日空NH910便に乗り換え、20時15分成田に着く。



広西大学での公演を終えて

2003年世界舞踊祭に参加

2003年6月8日(日)

2003年10月4日(土)

港区赤坂区民センターで開催された、筑波大学教授国枝タカ子先生主宰の「世界舞踊祭」に、当舞踊団も参加した。年2回企画上演されるこの催しは、世界各国の民族舞踊を中心に、出演団体はプロとアマチュアが混じった構成プログラムだが、幅広いジャンルの舞踊グループが出演している。

6月8日(日)の公演では、当舞踊団は宮城県・秋保に伝わる花田植えと豊年舞を基につくられた「祝い舞」、新潟県刈羽郡鶴川に伝わる阿国歌舞伎の型を残すといわれる「小原木」、山形県地方の民謡を現代のリズムにアレンジした「花笠踊り」、富山県八尾地方の「風の盆」で有名な「越中おわら」、沖縄八重山群島に伝わる口説節「黒島口説」の5曲を上演した。

開演に先立ち大野常務理事が、当舞踊団の成り立ちと最近の活動、並びに国際交流について話をした。

話の内容は「民族舞踊の国際交流事業に携わって感じたことは、日本とアジア大陸の国々とは、民族舞踊に対する伝承システムの違いを感じる。諸外国では国家的規

模で養成システムが出来上がっている。それに対して日本では各地の「保存会」又は一部の志ある舞踊家によって支えられているにすぎない。諸外国の場合は舞踊専科として、バレエをはじめダンスの基礎的なカリキュラムと平行して、民族舞踊が組み込まれている。

物事には一長一短があるように、この場合気になるのは、民族舞踊が本来持っている地域性というか、それぞれの個性が薄れ、作品が均一化されるような気がする。

伝統を継承させるために合理的な養成方式も必要だが、民族舞踊の場合、個々の作品の持つ宗教性、地域性、労働性など、もって生まれた特性を損なわないようにしなければならない。民族舞踊の魅力は、潜在的に民族の血の中にあるアイデンティティー、自らの原点を感じるところにある。」というようなことであった

尚、この年2回目の公演では、当舞踊団は次の演目を上演した。「ややこ踊り」「鳩間仲森」「会津磐梯山」「越中おわら」「黒島口説」。

さようならアジア文化研究プロジェクト最終記念大会

2003年12月13日(土)

学習院大学の東洋文化研究所アジア文化研究プロジェクトを主宰されていた諏訪春雄先生が、定年で退官されるのを機に、アジア文化研究プロジェクトを解散することになり、最終の記念大会が開かれた。先生のお弟子さんやプロジェクトに関わった大勢の先生方が集い、最後の講演発表会が開催された。このプロジェクトには、亡

くなった故黛節子前理事長も深く関わっておられたこともあり、講演会の後のパフォーマンスで民族舞踊を踊って欲しいという実行委員会からの要請をお受けして、当舞踊団も参加出演することとなった。曲目は「ややこ踊り」「鳩間仲森」「会津磐梯山」「越中おわら」「黒島口説」の5曲を上演した。



中国・韓国訪日団と新田地区の木崎音頭保存会のメンバーとの公開レッスン
群馬県新田町文化会館エアリスホール

——交流会の舞台より——



サランガ 金英実舞踊団



ややこ踊り 黛民族舞踊団



花笠踊り 黛民族舞踊団



三弦舞 中国訪日舞踊団



希望 中国訪日舞踊団



アジア民族交流会、柏崎にて 中国・韓国舞踊家



怒江峡谷（『人民中国』より）

財団法人

黛民族舞踊文化財団のあらまし

財団法人黛民族舞踊文化財団は、我が国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和61年3月文部大臣から設立を許可された法人です。

財団設立後は、(1)民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡業公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2)後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者（音楽、振付けを含む）、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創造活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3)日本各地および中国・韓国・東南アジア諸国の民族芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し、将来は資料館を設立して一般の利用に供することを計画しています。また、

(4)世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これら舞踊団との交流や、中国・韓国・東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5)民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申ししましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。

当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育ってまいりますよう、財団の事業目的をご理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げる次第です。

つきましては、当財団には賛助会員規定を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げます。

民族舞踊文化 No.16

2004年5月14日発行 発行人 犬丸 直 編集人 大野 晃

〒107-0052 東京都港区赤坂3-10-3 黛ビル4F

Tel 03-3583-3633(代)
Fax 03-3583-3639

財団法人 黛民族舞踊文化財団

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

MAYUZUMI BLD 4F, 3-10-3, AKASAKA, MINATO-KU, TOKYO